

笛

三年

画数 11
筆順
フン
オン
テキ
ふえ

成り立ち



「竹」のいみの「フ」と、「よる」といういみをあらわした「由」(年426)とを組み合わせて作った字です。「竹に「より」、作られた「ふえ」をあらわした字です。むかしの「ふえ」は、竹のくだ(管年473)にあなをあけて作りしました。それで、ふきならず「がつき」のことを「管がつき」というのです。

使い方

▽お父さんは草笛がとでもじょうずです。ハイキングに行つてひと休みしたときなど、手近にある草のはで草笛をふいて聞かせてくれます。

▽うんどう会のさいごは、鼓笛隊を先頭に立てての大こうしんでした。

熟語例

▽草笛(草のはをくちびるにあててふき、笛のような音を出すこと。笛ではないけれども、笛のような音が出るので「草笛」といいます。)

▽口笛(くちびるをまるくすばめ、いきをつよく出して笛のような音を出すこと。指を口に入れてするのもあります。)

▽角笛(どうぶつの角で作った笛。アルプスのホルンはこれです。)

▽汽笛(汽車や汽船がならす笛。じょう気をふき出してならす笛です。)

▽鼓笛隊(太鼓と笛とでへんせいされた音楽隊。行進曲をえんそうして行進するものです。)

鉄

三年

画数 13
筆順
クン
オン
テツ

成り立ち



徹(「つらぬきとおす」といういみの字)といういみをあらわした「失」(年536)と「金」とを組み合わせて作った字です。どんなものでもつらぬきとおす、「かたくてつよい金ぞく」の「テツ」をあらわした字です。

〔旧字体は「鐵」で、「切」のいみの「戔」と「呈」の会意・形声字である。「切」が「セツ」と発音されるように「呈」が「テツ」と発音されるようになったものである。よく切れる鋭利な金属を表した字である。〕

「失」の音はシツであるが、訛るとチツ(秩序)やテツ(更迭)と発音される。〕

使い方

▽いなかのおじいさんの家も、鉄骨、鉄筋のコンクリートの家にたてかわりました。

▽鉄道のせんろのわきに、水をおくるための鉄管が長くのびています。

熟語例

▽鉄骨(たてものの骨ぐみにつかう鉄材)

▽鉄材(たてものなどにつかう鉄の材料)

▽鉄筋(コンクリートのたてものをつよめるために、しんに入れる筋じょうの鉄材。また、「鉄筋コンクリート作り」といういみにもつかわれます。)

▽鉄道(「鉄の道」ということで「線路」をあらわしたものです。線路の上を走らせる「汽車・電車」のいみにつかわれています。)

▽鉄管(「鉄で作られた管」。水をおくる水道管など)

▽鉄則(かえたり、やぶつたりすることのゆるされない、きびしい規則のことをいいます。)

▽鉄腕(鉄のようにつよくたくましい腕)

▽鉄壁(「鉄の壁」といういみで、「ひじょうにかたいまもり」のいみにつかわれます。)